6 Rates of Convergence

M 推定量の収束レートについて議論する.

 \mathbb{P}_n を分布 P からのサイズ n のサンプルによる経験分布とする。任意の $\theta \in \Theta$ に対して, $x \mapsto m_{\theta}(x)$ は可測関数であるとする。 $\hat{\theta}_n$ は規準関数 $\theta \mapsto \mathbb{P}_n m_{\theta}$ をほとんど最大にするような推定量であるとする。

規準関数は $\theta \mapsto Pm_{\theta} \in \theta \mapsto \mathbb{P}_n m_{\theta} - Pm_{\theta}$ の和となっている。 $\hat{\theta}_n$ の収束レートはこれらの写像の組み合わせ次第である。もし、前者が θ が最大点から離れるにつれ速く変化し、後者が小さいとすれば、 $\hat{\theta}_n$ の収束レートは高くなる。

簡便のため、変動を経験過程 $\mathbb{G}_n m_{\theta} = \sqrt{n}(\mathbb{P}_n m_{\theta} - p m_{\theta})$ で測ることにする.

Theorem 6.1 (Rate of convergence). 固定された定数 C と $\alpha > \beta$ について、任意の n と十分小さな $\delta > 0$ に対して、

$$\sup_{\substack{d(\theta,\theta_0)<\delta}} P(m_{\theta} - m_{\theta_0}) \le -C\delta^{\alpha},$$

$$E^* \sup_{\substack{d(\theta,\theta_0)<\delta}} |\mathbb{G}_n(m_{\theta} - m_{\theta_0}) \le C\delta^{\beta}$$

が成り立つと仮定する. もし、 $\hat{\theta}_n$ が

$$\mathbb{P}_n m_{\hat{\theta}_n} \ge \mathbb{P}_n m_{\theta_0} - O_P(n^{\alpha/(2\beta - 2\alpha)})$$

を満たし、 θ_0 に外確率収束するならば

$$n^{1/(2\alpha-2\beta)}d(\hat{\theta}_n,\theta_0) = O_P^*(1)$$

となる。

Proof. $r_n=n^{1/2\alpha-2\beta}$ とする. $\hat{\theta}_n$ は規準関数 $\theta\mapsto\mathbb{P}_n m_\theta$ を $R_n=O_P(r_n^{-\alpha})$ まで最大化しているとする. ※ これは

$$\mathbb{P}_n - \sup_{\theta} \mathbb{P}_n m_{\theta} \ge -O_P(r_n^{-\alpha})$$

を意味している.

各 n に対して、 $\Theta - \{\theta_0\}$ は $j \in \mathbb{Z}_+$ として、 $S_{j,n} = \{\theta: 2^{j-1} < r_n d(\theta,\theta_0) \le 2^j\}$ に分割できる。 ある $M \in \mathbb{Z}_+$ について、 $r_n d(\hat{\theta}_n,\theta_0) > 2^M$ であれば、 $\hat{\theta}_n$ は j > M なる $S_{j,n}$ のどれか 1 つに含まれる。この とき、 $\hat{\theta}_n$ に対する仮定より、

$$\sup_{\theta \in S_{j,n}} (\mathbb{P}_n m_{\theta} - \mathbb{P}_n m_{\theta_0}) \ge -R_n$$

である. これより、任意の $\epsilon > 0$ に対して、

$$P^*(r_n d(\hat{\theta}_n, \theta_0) > 2^M) \le \sum_{j > M, 2^j \le \epsilon r_n} P^* \left(\sup_{\theta \in S_{j,n}} (\mathbb{P}_n m_\theta - \mathbb{P}_n m_{\theta_j}) \ge -\frac{K}{r_n^\alpha} \right)$$
$$+ P^*(2d(\hat{\theta}_n, \theta_0) \ge \epsilon) + P(r_n^\alpha R_n \ge K)$$

が成り立つ. これを示す.

$$P(A) \le P(A \cap B) + P(B^c)$$

$$\le P(A \cap B \cap C) + P(C^c) + P(B^c)$$

で、 $A = \{r_n d(\hat{\theta}_n, \theta_0) > 2^M\}$ 、 $B = \{2d(\hat{\theta}_n, \theta_0) < \epsilon\}$ 、 $C = \{r_n^{\alpha} R_n < K\}$ とおく、このとき、 $A \cap B \cap C$ という事象を考える。この事象は $\{2^M < r_n d(\hat{\theta}_n, \theta_0) < \frac{\epsilon r_n}{2}$ かつ $r_n^{\alpha} R_n < K\}$ 。このとき先ほどの議論により、ある j $(j > M, 2^j \le \epsilon r_n)$ が存在して、 $\theta \in S_{j,n}$ で、このとき、

$$\sup_{\theta \in S_{j,n}} (\mathbb{P}_n m_{\theta} - \mathbb{P}_n m_{\theta_0}) \ge -R_n \ge -\frac{K}{r_n^{\alpha}}$$

以上により先の式が示せた。

ここで、 $\hat{\theta}_n \stackrel{P}{\to} \theta_n$ より、 $P^*(2d(\hat{\theta}_n, \theta_0) \ge \epsilon) \to 0$.

次に、 $P(r_n^{\alpha}R_n \ge K)$ は $R_n = O_P(r_n^{-\alpha})$ から $r_n^{\alpha}R_n = O_P(1)$ より、K を十分小さくとれば、n について一様に、任意の小さくすることができる。

最後に, $\sum_{j>M,2^j\leq \epsilon r_n} P^*\left(\sup_{\theta\in S_{j,n}}(\mathbb{P}_n m_{\theta}-\mathbb{P}_n m_{\theta_j})\geq -\frac{K}{-r_n^{\alpha}}\right)$ について.まず, $\epsilon>0$ を定理の条件が $\delta\geq\epsilon$ で成り立つように十分小さくとる.すると和に現れる任意の j で

$$\sup_{\theta \in S_{j,n}} P(m_{\theta} - m_{\theta_0}) \le -C \frac{2^{(j-1)\alpha}}{r_n^{\alpha}}.$$

結局, $\frac{1}{2}C2^{(M-1)\alpha} \ge K$ に対して,

$$\sum_{j>M,2^{j} \le \epsilon r_{n}} P^{*} \left(||\mathbb{G}_{n}(m_{\theta} - m_{\theta_{0}})||_{S_{j,n}} \ge C\sqrt{n} \frac{2^{(j-1)\alpha}}{2r_{n}^{\alpha}} \right) \le \sum_{j\ge M} \frac{C(2^{j}/r_{n})^{\beta}}{C\sqrt{n}2^{(j-1)^{\alpha}}/2r_{n}^{\alpha}}$$

$$= \sum_{j>M} \frac{(2^{j}/r_{n})^{\beta}2r_{n}^{\alpha}}{\sqrt{n}2^{(j-1)\alpha}}.$$

 $M = M_n \to \infty$ で右辺はゼロに収束する. これを用いれば、

$$\sum_{j>M,2^{j} \leq \epsilon r_{n}} P^{*} \left(\sup_{\theta \in S_{j,n}} (\mathbb{P}_{n} m_{\theta} - \mathbb{P}_{n} m_{\theta_{0}}) \geq -\frac{K}{r_{n}^{\alpha}} \right)$$

$$\leq \sum_{j>M,2^{j} \leq \epsilon r_{n}} P^{*} \left(\sup_{\theta \in S_{j,n}} \{\mathbb{P} m_{\theta} - \mathbb{P} m_{\theta_{0}} - (Pm_{\theta} - Pm_{\theta_{0}}) + (Pm_{\theta} - Pm_{\theta_{0}})\} \geq -\frac{K}{r_{n}^{\alpha}} \right)$$

$$\leq \sum_{j>M,2^{j} \leq \epsilon r_{n}} P^{*} \left(\sup_{\theta \in S_{j,n}} \{\mathbb{P} m_{\theta} - \mathbb{P} m_{\theta_{0}} - (Pm_{\theta} - Pm_{\theta_{0}})\} + \sup_{\theta \in S_{j,n}} \{(Pm_{\theta} - Pm_{\theta_{0}})\} \geq -\frac{K}{r_{n}^{\alpha}} \right)$$

$$\leq \sum_{j>M,2^{j} \leq \epsilon r_{n}} P^{*} \left(\sup_{\theta \in S_{j,n}} \{\mathbb{P} m_{\theta} - \mathbb{P} m_{\theta_{0}} - (Pm_{\theta} - Pm_{\theta_{0}})\} - C\frac{2^{(j-1)\alpha}}{r_{n}^{\alpha}} \geq -\frac{C2^{(j-1)\alpha}}{2r_{n}^{\alpha}} \right)$$

$$= \sum_{j>M,2^{j} \leq \epsilon r_{n}} P^{*} \left(||\mathbb{G}_{n}(m_{\theta} - m_{\theta_{0}})||_{S_{j,n}} \geq C\sqrt{n} \frac{2^{(j-1)\alpha}}{2r_{n}^{\alpha}} \right) \to 0$$

が言えた.

定理の条件をお手軽チェックする方法を考える。 θ がユークリッド空間上のベクトルとする。写像 $\theta \mapsto Pm_{\theta}$ が θ_0 で 2 階連続微分可能とする。 1 階微分は消えるので,テイラー展開すると

$$P(m_{\theta} - m_{\theta_0}) = \frac{1}{2} (\theta - \theta_0)^T V(\theta - \theta_0) + o(||\theta - \theta_0||^2)$$

よって1つ目の条件

$$\sup_{d(\theta,\theta_0)<\delta} P(m_{\theta} - m_{\theta_0}) \le -C\delta^{\alpha}$$

は V が非特異であれば、 $\alpha = 2$ で成り立つことが分かる.

この定理の2つ目の条件 (Maximal indequality)

$$E^* \sup_{d(\theta,\theta_0)<\delta} |\mathbb{G}_n(m_{\theta}-m_{\theta_0})| \le C\delta^{\beta}$$

はチェックするのが難しい.

 $\beta=1$ が'' よくある'' \sqrt{n} の収束レートを得るための regular cases. $\alpha=2,\beta=1/2$ で収束レート $n^{1/3}$ になる普通でないケースもあるらしい.

19 章では $\{m_{\theta} - m_{\theta_0} : d(\theta, \theta_0) < \delta\}$ という関数のクラスの複雑さ(エントロピー)を測り,それを元に左辺の上界を得る補題や系が紹介される。 $\theta \mapsto m_{\theta}$ に対するリプシッツ条件はエントロピーのシンプルに推定し,多くの場面で応用される

Corollary 6.2. ユークリッド空間の開部分集合の各 θ について, $x \mapsto m_{\theta}(x)$ は可測関数で, θ_0 の近傍の任意の θ_1, θ_2 と $P\dot{m}^2 < \infty$ なる可測関数 \dot{m} について

$$|m_{\theta_1}(x) - m_{\theta_2}(x)| \le \dot{m}(x)||\theta_1 - \theta_2||$$

が成り立つとする。 さらに、写像 $\theta\mapsto Pm_{\theta}$ は θ_0 で非特異な 2 階導関数により 2 次のテイラー展開可能とする。 このとき、 $\mathbb{P}_n m_{\hat{\theta}_n} \geq \mathbb{P}m_{\theta_0} - O_P(n^{-1})$ で $\hat{\theta}_n \stackrel{P}{\to} \theta_0$ であれば、 $\sqrt{n}(\hat{\theta}_n - \theta_0) = O_P(1)$ である.

Proof. テイラー展開に関する仮定と $P\dot{m}_{\theta_0}=0$ から

$$P(m_{\theta} - m_{\theta_0}) = \frac{1}{2} (\theta - \theta_0)^T V(\theta - \theta_0) + o(||\theta - \theta_0||^2)$$

でVは非特異となり、

$$\sup_{d(\theta,\theta_0)<\delta} P(m_{\theta}-m_{\theta_0}) \le -C\delta^2.$$

定理 5.52 の1つ目の条件は成り立つ。次に2つ目の条件

$$E^* \sup_{d(\theta,\theta_0)<\delta} |\mathbb{G}_n(m_{\theta}-m_{\theta_0})| \le C\delta^{\beta}$$

が、 $\beta = 1$ で成り立つことを示す。 そのために Corollary 19.35

Corollary 6.3. envelope function F を持つ可測関数のクラス F に対して

$$E_P^*||\mathbb{G}_n||_{\mathcal{F}} \leq J_{\Pi}(||F||_{p,2},\mathcal{F},L_2(P))$$

が成り立つ.

を、使いたい、まず、この定理に出てくる用語や記号を説明する.

まず、 $x\mapsto f(x)\;(x\in\mathbb{R}^p,f(x)\in\mathbb{R})$ の関数クラス F があって F がその envelope function であるとは、任意の x,f について

$$|f(x)| \le F(x) < \infty$$

となることをいう.

また、'≲' は smaller than up to a universal constant, つまり右辺は定数倍以上で、その定数は問題によらず一定であることを意味する.

 $J_{[]}$ は $\mathcal F$ の複雑さの指標である bracketing entropy $N_{[]}$ から定義される量である。 1 9 章を参照されたい。 $||\mathbb G_n||_{\mathcal F}=\sup_{f\in\mathcal F}|\mathbb G_n f|$ である.

Corollary 6.2 に戻る。まず、 $\mathcal{F} = \{m_{\theta} - m_{\theta_0} : ||\theta - \theta_0|| < \delta\}$ とすれば、仮定から envelope function $F = \dot{m}\delta$ をとれる。このとき、Corollary 19.35 を適用すれば、

$$E^* \sup_{||\theta - \theta_0|| < \delta} |\mathbb{G}_n(m_\theta - m_{\theta_0})| \lesssim \int_0^{||\dot{m}||_{P,2}\delta} \sqrt{\log N_{[]}(\epsilon, \mathcal{F}, L_2(P))} d\epsilon$$
$$\leq C \int_0^{||\dot{m}||_{P,2}\delta} \sqrt{\log \left(\frac{\delta}{\epsilon}\right)}.$$

ここで、 $\log\left(\frac{\delta}{\epsilon}\right) = u$ と変数変換すれば、

$$\int_0^{||\dot{m}||_{P,2}\delta} \sqrt{\log\left(\frac{\delta}{\epsilon}\right)} = \int_{\infty}^{-\log||\dot{m}||_{P,2}} u^{1/2}(-\delta)e^{-u}du$$

$$= \delta \int_{||\dot{m}||_{P,2}\delta}^{\infty} u^{1/2}e^{-u}du$$

$$\leq \delta \int_0^{\infty} u^{1/2}e^{-u}du$$

$$= \delta\Gamma(3/2)$$

結局 δ の定数倍で押さえられることが分かり、Theorem 5.52 の条件 2 が $\beta=1$ で成り立つことが分かる。以上により、 $\sqrt{n}d(\hat{\theta}_n,\theta_0)=O_P^*(1)$ が示せた。